

あれこれふあ



ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

2025年5・6月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 Tel. 047-320-3346

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
5月	932	504	569	27	5	2,037	1,660	43	183	230	127	492	4,682
6月	835	498	571	8	10	1,922	1,457	58	208	137	129	563	4,474
累計	2,828	1,528	1,767	58	30	6,311	4,583	164	640	453	393	1,790	14,334

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

🔍 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

I/C5 市川市稲越にある千葉県立国分高校付近で、「松丸太郎兵衛」という屋号で代々梨園・農業を営んでいた人についての資料・記録が欲しい。

『市川市の石造物 市川市石造文化財調査報告書』（市立市川歴史博物館 2008）p.121 No.31「稲越町巖島神社」の記念碑の銘文に「奉納 田一段十一歩 当村松丸太郎兵衛 [右] 大正十三年一月廿五日」とある。また、p.123 No.67「稲越町巖島神社」の記念碑の銘文に「表参道土地三十五坪 昭和三十四年十月九日 寄附者松丸太郎兵衛」とある。

次に、『市川の伝承民話』（市川民話の会／編集 市川市教育委員会 1992）p.306には稲越の屋号が列挙されており、先頭に「松丸長久 太郎兵衛」とある。また、『礎 郷土を創る人びと』（地方自治調査会 1982）p.69に「かつての租にそう呼ばれた人がいた名残か、土地の人からは「太郎兵衛」という屋号で呼ばれ、親しまれている。」と同氏について掲載されている。さらに、「旧制市川実業学校を卒業、直ちに家業の農に従った。」とあり、戦後の「農地改革の断行」による家業の衰退に立ち向かった結果「一家は隆昌へと向い、往時に近づきつつある。」と紹介がある。加えて、「稲越に松丸姓を名乗る家は数多いが、その本家筋に当たるのが、当家」とある。「松丸長久 太郎兵衛」氏について周辺情報の記載もあり。

その他、国会デジタルコレクションで「松丸太郎兵衛」をキーワード検索したところ、江戸・明治時代の屋号「松丸太郎兵衛」についても確認できた。江戸時代については、『重要文化財法華経寺祖師堂保存修理工事報告書 本文編』（文化財建造物保存技術協会／編集 大本山中山法華経寺 1998）p.401 法華経寺の元禄十五年（一七〇二）の祖師堂の寄進棟札に「稲越 松丸太郎兵衛」とあった。また明治時代には、『千葉県史料 近代篇・[1-5] 明治初期』（千葉県 1972）p.310「明治十年 政治部（賞典）」の項に「秋山学校」へ三拾円寄付したとして「稲越村 松丸太郎兵衛」の記録がある。『松戸市史 史料編 5 [上] 秋谷家文書』（松戸市立図書館 1990）p.396「5 改正大区区长小区戸長副戸長人名書」の十二大区壱小区戸長四等にも「松丸太郎兵衛」とあり、p.506-614に「松丸太郎兵衛」に対し、明治十年一月から明治十二年一月にかけて副戸長として給金や筆墨料が支払われた記録がある。また、p.586-587には「稲越村 松丸太郎兵衛」の戸長選挙法に係る履歴調査達書や履歴届出書についても記されている。

185.7 袈裟の種類にはどのようなものがあるか。

『袈裟のはなし』（久馬慧忠／著 法蔵館 2000）p.3に「袈裟は、その形、色、大きさ、着け方に至るまで、実に千差万別、数えきれないほどの種類があります。当初の形である長方形の大きさのものから、後に簡略化された畳袈裟、横五条、種子袈裟、絡子、輪袈裟、結袈裟などが考案され、一般に使用されるようになりました。」とある。『袈裟のはなし 仏のこころとかたち』（久馬慧忠／著 法蔵館 1989）p.46-55「袈裟の名称と種類」によると、「条数で分ければ11種類」、「用途別で分ければ3種類」、「裁縫別で分ければ5種類」とされている。宗派ごとの服装は、p.88-93にそれぞれのイラストがある。『やさしい「御袈裟」の話』（保刈

禎子／著 近代文芸社 1994) p.177 には、「日本では、仏教宗派の数が非常に多く、各宗派により、僧衣の服制を作り、宗教集団としての装束を守っているのが、形態、着装面では、差違は少ないが、素材、文様については、色々と異なる様である」とある。

他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
210.5	堀田正敦 (近江堅田藩、下野佐野藩の藩主) の生涯がわかる本を知りたい⇒『江戸鳥類大図鑑』(堀田正敦／著 鈴木道男／編著 平凡社 2006) p.718-728 に詳細、p.742-743 に年譜がある。『彩色江戸博物学集成』(平凡社 1994)p.173-188 および『国史大辞典 12』(吉川弘文館 1991) p.765 にも記載がある。『三百藩藩主人名事典 1』(新人物往来社 1986) p.289、『三百藩藩主人名事典 3』(新人物往来社 1987) p.284-285 に略歴あり。	
288	胎児にへその緒が巻き付いた状態での出産を「袈裟を巻いて生まれる」というと聞いたが、実際にある表現か。また、そうして生まれた子どもの名付けに「袈裟」をもちいる風習について知りたい⇒『名前のはなし』(高梨公之／著 東京書籍 1981) p.59-60 に「ケサは、今日ではへその緒を首にかけて生まれた子に対する命名である。鹿児島では、その子は仏の加護をうけるといい、袈裟太郎・熊袈裟・虎袈裟・ケサヨシなどの名があった」とあり、また「阿蘇付近では、この種の出生児は成長しがたいので、袈裟寿・今朝吉・今朝一・今朝治・今朝喜・今朝雄・今朝熊・ケサ子・ケサヨ等の名をつけ、わざわざ避けている」とある。	
589.8	たばこのパッケージが載った本はあるか⇒『タバコパッケージクロニクル』(たばこと塩の博物館／監修 イカロス出版 2008) に大蔵省専売局、日本専売公社、JT が発売したたばこのパッケージが年代ごとに当時の時代背景とともに紹介されている。他に、『たばこおもしろカタログ図鑑』(講談社 1987) p.47-64、昭和時代に発売されたパッケージについては『昭和たばこ図鑑』(たばこと塩の博物館／監修 小学館 2025) が詳しい。	
693.9	ファミリーレストランの 1 号店はいつできたか⇒『外食産業を創った人びと 時代に先駆けた 19 人』(日本フードサービス協会 2005) p.23-26、すかいらーく創業者の一人、茅野亮が「ファミリーレストラン」の名称を広めた経緯、「一号店のスカイラーク国立店開業が一九七〇(昭和四五)年七月」であったこと等が記載されている。『ファミリーレストラン』(今松二／著 光文社 2013) p.118-122、『日本外食全史』(阿古真理／著 亜紀書房 2021) p.380 にも「ファミリーレストラン」の名称誕生時についての記述あり。	
718.3	円空仏はどこでみることができるのか⇒『円空 微笑みの謎』(長谷川公茂／著 新人物往来社 2012) では北海道から関西まで各地に残る円空仏を紹介しており、p.156-159 巻末付録に「全国の円空仏所在地マップ」がある。また、『円空と木喰 微笑みの仏たち』(小島梯次／監修・著 東京美術 2015) p.162-163 にも「円空仏のおもな所在地」が地図上に示されている。	
816.6	終活の一環として年賀状じまいをしようと思っているが、例文の載っている本はないか⇒『後悔しない「年賀状終活」のすすめ』(澤岡詩野／著 カナリアコミュニケーションズ 2019) p.114-124、『60 代からを身軽に幸せに生きる便利帖』(晋遊舎 2022) p.25、『年金暮らしでも生活が楽になる』(文響社 2023) p.106-107 に掲載されている例文を紹介。	
K451	ビル風が強い理由が子どもにもわかる本を知りたい⇒『身近な自然に学ぶくらしの知恵 1』(太田真／著 くもん出版 2002) p.32 にイラストや写真を交え、子どもにもわかりやすい解説あり。	
K693	郵便物の流れ、郵便屋さんの仕事ができるような絵本を探している⇒『ゆうびんです ポストです』(かこさとし／著 復刊ドットコム 2017)、『おもしろい!楽しい!うれしい!手紙 1』(スギヤマカナヨ／著 偕成社 2018)、『ゆうびんきょくにいこう』(ほるぷ出版 2023) を紹介。	
K750	くじの作り方が載っている本はあるか⇒『新やさしいこうさく 5』(竹井史郎／作 小峰書店 2015) p.30、『新やさしいこうさく 12』(小峰書店 2015) p.31 に記載あり。	
K913	小学 2 年生の教科書『新編 新しいどうとく 2』(東京書籍) 掲載の「たんじょう日」(東君平／文)のオリジナルを探している⇒出版社の東京書籍に問い合わせたところ、『おかあさんがいっぱい』(東君平／作・絵 金の星社 1981) が原典であり、p.62-66 の「命の箱—なつこさんのおかあさん」という作品をもとにしていると判明。	